

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：23903

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18510

研究課題名（和文）冠詞と複数形語尾の使い方がわかる英和辞典の開発：名詞的名詞と動詞的名詞を基に

研究課題名（英文）Development of an English-Japanese dictionary that shows the use of articles and the plural -s: Based on Nouny Nouns and Verby Nouns

研究代表者

日木 満 (HIKI, Mitsuru)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授

研究者番号：10238280

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000 円

研究成果の概要（和文）：可算名詞 [C]か不可算名詞[U]かの区別の上位概念として、新たに 広義のモノを指示する「名詞的名詞(nouny nouns: [nN])」と、「モノを指示するのではなく、本動詞と共に文中の名詞(N)を叙述する(Nが～する/なる/である等の意味と相(aspect)と態(voice)等の解釈を加える)」「動詞的名詞(verby nouns: [vN])」の区別を想定する有用性を示した。vNは無冠詞・非複数形であり、[C]か[U]かの判断はnNに限定されること、またnNとvNの区別は前置詞や動詞を理解する上でも重要であることを示し、英和辞典の記述に取り入れることを提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

名詞の分類に「名詞的名詞[nN]」と「動詞的名詞[vN]」という新しい区分を想定することにより、従来の可算名詞[C]か不可算名詞[U]かの区分からだけでは説明できなかった数々の事例に一貫した説明を可能にした。英和辞典でnNとvNを区別してそれぞれの語義と例文をのせることにより、冠詞と複数形語尾の使い方が格段にわかりやすくなる可能性を示した。また、nNとvNの区別は名詞だけでなく、前置詞や動詞の理解にも貢献する概念であることを示した。（同じ前置詞・動詞でも、nNを目的語にとる前置詞・動詞とvNを目的語にとる前置詞・動詞では、名詞の形が異なるだけでなく、前置詞・動詞の意味・用法が異なる。）

研究成果の概要（英文）：This study demonstrates the usefulness of assuming a new distinction between Nouny Nouns (nN) and Verby Nouns (vN) as a superordinate concept of the distinction between Countable Nouns ([C]) and Uncountable Nouns ([U]) that is widely used in the dictionary but that often has little explanatory power in accounting for noun form usage. Nouny Nouns have the usual function of referring to an object in the broadest sense, and their noun form depends on the countability of the noun in the given context (The company needs regulations). Verby Nouns, in contrast, do not have the referential function, but rather they describe a noun in the sentence by a verb meaning together with the main verb, and their noun form is always a bare form ([N]) (The company needs regulation), which will make judgment of noun forms simpler and easier. The nN/vN distinction also reveals that prepositions and verbs function differently depending on which noun type (nN or vN) they take as their object.

研究分野：応用言語学

キーワード：英和辞典 名詞的名詞 動詞的名詞 冠詞 複数形

様 式 C - 1 9、F - 1 9 - 1、Z - 1 9（共通）

冠詞と複数形語尾の使い方がわかる英和辞典の開発：名詞的名詞と動詞的名詞を基に
日本満

1．研究開始当初の背景

英語学習において、文中の名詞に冠詞（**a, the**）や複数形語尾（**-s**）をつけるか否か、つまり、その文脈で名詞をどの形で使うか（[ə N], [an N], [the N], [ə Ns], [the Ns]）の判断は重要であるが、その判断は多くの日本人英語学習者には容易ではない場合が多い。英文法では一般に名詞を可算名詞（**countable nouns [C]**）と不可算名詞（**uncountable nouns [U]**）に分け、一定の説明がなされているが、個々の名詞の詳細については辞書を参照するように助言される。しかし、既存の英和辞典、英英辞典では、**[C] [U]**表記はしてあるものの、違いの説明がないまま **[C,U]**や**[U,C]**のように **C** と **U** を併記する場合が多く、時には**[C, U, usually Pl.]**といったような不可解な表記さえあり（例：**negotiation**）名詞形選択に困って辞書をひいても明解な情報が得られないという現実がある。この現実を打破するためには、おそらく、根本的なパラグラムシフトが必要なのではないかと考え、「名詞的名詞（**nouny nouns**）**[nN]**」と「動詞的名詞（**verby nouns**）**[vN]**」という新しい名詞区分を前面に押し出した英和辞典が有効ではないかと考えたことが、研究開発当初の背景にあった。

2．研究の目的

冠詞と複数形語尾の使い方がわかる英和辞典にするためには、辞書にどのような情報を盛り込むことが有効かを明らかにすることが研究の目的であった。具体的には筆者が考える「名詞的名詞（**nouny nouns**）**[nN]**」と「動詞的名詞（**verby nouns**）**[vN]**」という新しい名詞区分の妥当性を検証し、その違いを前面に押し出して辞書表記することの有用性を検証することにあった。

3．研究の方法

辞書、コーパス、などから「名詞的名詞（**nouny nouns**）**[nN]**」と「動詞的名詞（**verby nouns**）**[vN]**」と思われる用例を収集し違いを分析した上で、筆者が考える **nN** と **vN** の区分がネイティブスピーカーにとっても直感的な違いとして認識されているかを、ネイティブインフォーマントの協力を得て確認作業を行った。

4．研究成果

成果発表として **2024 年 3 月 2 日**、名古屋市立大学人間文化研究所主催の **Human & Social** サイエンスカフェにおいて講演を行った。下記のポイントの具体例は発表資料を参照のこと。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/lab/report/science-cafe/151455/>

（１）「名詞的名詞（**nouny nouns**）**[nN]**」と「動詞的名詞（**verby nouns**）**[vN]**」の具体例と、それぞれの役割、名詞形、修飾関係、について、以下のようにまとめ、ネイティブ（米語）インフォーマントの協力を得て確認作業を行った結果、直感的にその違いは感じるとの反応を得た。

	名詞的名詞(nN) Nouny Nouns	動詞的名詞(vN) Verby Nouns
例	1a. It looks like <u>snow</u> . 2a. He gave <u>a flat denial</u> .	1b. It looks like <u>snow</u> . (v=snow) 2b. He shook his head in <u>denial</u> . (v=deny)

	3a. They promised a <u>full investigation</u>. 4a. He received <u>instructions</u> in English. 5a. The president is in <u>the control</u> of the faculty. 6a. He fainted at <u>the first sight</u> of blood. 7a. He was worn thin by <u>his worries</u>. 8a. <u>His life</u> is in danger.	3b. It requires <u>close investigation</u>. (v=investigate) 4b. He received <u>instruction</u> in English. (v=instruct) 5b. The president is in <u>control</u> of the faculty. (v=control) 6b. He fell in love with her at <u>first sight</u>. (v= see) 7b. He was worn thin with <u>worry</u>. (v=worry) 8b. <u>Life</u> is difficult. (v=live)
役割	文に広義のモノ(指示物)を導入する	指示物なし 文に vN 内の動詞的な意味(v)を導入する（一般/BE 動詞） 主動詞(Large V)と共に N を叙述する（“N V” + “N v”）
名詞形	[\emptyset N] [an N] [the N] [one's N] [\emptyset Ns] [the Ns] [one's Ns]	[\emptyset N]
修飾関係	What N? どんな N? 自他・アスペクト・態は関係なし	How? どう v ? (v は一般動詞(自・他)/BE 動詞) どう～する・なる・である + 自他/アスペクト/態 自動詞か他動詞か、どのアスペクトか(完了/進行/これから)、能動態か受動態か、適切な解釈が必要
形容詞	形容詞として解釈「 どんな N? 」	vN 内の v を修飾するので 副詞的 に解釈「 どう v? 」

（２）その上で、以下の仮説を提示し、それぞれの具体例について、ネイティブインフォーマントの確認を得た。

仮説

【現状】

➡

【仮説】

1. 名詞には名詞的名詞(nN)と動詞的名詞(vN)の２種類がある。
2. 動詞的名詞(vN)の名詞形はいつも [\emptyset N]形。
3. CかUかが関係するのは名詞的名詞(nN)の時のみ。
4. 名詞形を考えるとときは、CかUの判断の前に、まずnNかvNの判断を！
5. 動詞にもnNをとる動詞(nV)とvNをとる動詞(vV)の２種類がある。
6. 前置詞にもnNをとる前置詞(nP)とvNをとる前置詞(vP)の２種類がある。
7. 名詞的名詞(nN)と 動詞的名詞(vN)の区別する解説書と辞書があると便利ではないか。

（３）名詞の分類に「名詞的名詞[nN]」と「動詞的名詞[vN]」という新しい区分を想定することの利点として以下をあげた。

1. 正しい名詞形を選ぶようになる割合が高まる。（冠詞の悩みや間違いが減る。余計な **the** や **a** をつけようとしなくなる。なぜ、可算名詞なのに何もつかないのか悩む必要がなくなる。）
2. 従来の可算名詞[C]か不可算名詞[U]かの区分からだけでは説明できなかった数々の事例に一貫

した説明を可能にし、英語そのものの意味がより正確に理解できる。

3. 英語の表現の幅が広がる。

- 動詞の進行形（**be V-ing**）を使わなくても、進行中の状態を表現できる。
- 受動態（**be V-ed**）を使わなくても、受身の意味が表現できる。
- if/ when ... など接続詞等を使わなくても、条件/仮定的、接続詞的な意味が表現できるなど。
- （前置詞の力を借りて）**not** を使わなくても、否定の意味が表現できる。

（４）英和辞典で **nN** と **vN** を区別してそれぞれの語義と例文をのせることにより、冠詞と複数形語尾の使い方が格段にわかりやすくなる可能性を示した。また、**nN** と **vN** の区別は名詞だけでなく、前置詞や動詞の理解にも貢献する概念であることを示した。（同じ前置詞・動詞でも、**nN** を目的語にとる前置詞・動詞と **vN** を目的語にとる前置詞・動詞では、名詞の形が異なるだけでなく、前置詞・動詞の意味・用法が異なるため。）

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1．発表者名 日木満
2．発表標題 名詞的名詞(nN)と動詞的名詞(vN)を区別する英語辞書の構想
3．学会等名 JACET英語辞書研究会
4．発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------